

ふたじま

北九州市立二島小学校
文責 校長 宮原 雅則



こんな子どもに育
てることを
目指します

全国学力・学習状況調査の結果について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。本校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

- よく考え進んで学ぼうとする子
- やさしく思いやりのある子
- 明るく元気で、進んで働く子
- きまわりを守れる子

□ 学力調査の内容と本校6年生の調査結果

○ 全国・本市の学力調査（国語A・B、算数A・B）の結果

| 本年度の結果 | 国語A | | 国語B | | 算数A | | 算数B | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 10.4 | 70 | 5.6 | 56 | 12.1 | 76 | 5.8 | 45 |
| 全国 | 10.9 | 73 | 5.8 | 58 | 12.4 | 78 | 6.1 | 47 |

○ 本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|-----|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均正答率を上回っている。中でも、話す・聞く能力、言語の知識については、全国を3ポイント上回っている。しかし、書く能力については、6ポイント下回っている。 ・国語におけるすべての基礎的、基本的な能力、特に書く能力の向上については、手立てを講じなければならない。 | 全国平均正答率との比較 上回っている |
| | よくできた問題 | ・漢字の問題は比較的正答率が高かった。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・書く能力は、正答率が低かった。 | |
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均正答率を約4ポイント下回っていた。 ・どの観点においても、活用する力をもっと高めていかなければならない。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | ・選択式の問題は、比較的正答率が高かった。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・記述式の問題の中でも、メモを基に話の展開に沿った質問を書く問題は正答率が低かった。 | |
| 算数A | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均正答率を約5ポイント下回っている。 ・どの領域においても、基礎・基本を確実に見つけさせる必要がある。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | ・簡単な四則演算、不等号の問題は正答率が高かった。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・数の大小、割合に関する問題は正答率が低かった。 | |
| 算数B | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> ・全ての領域において、全国平均正答率を下回っており、基礎・基本に加えて、算数の活用する力をいかに高めていくかが課題である。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | ・正方形の面積の求め方については、よく理解できている。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・式の意味や式の中の数字の意味を説明する問題の正答率が低い。 | |

○ 生活習慣等に関する調査結果から

- ・ 夢や目標をもっている児童は多いです。また、人の役に立ちたいと思っている児童も多いです。しかし、きまりを守ったり、自分が大切だと思ったりする気持ちがまだ低いです。
- ・ 学校の宿題はよくやってきますが、自分で計画的に家庭学習を行おうとする児童はとても少ないです。

調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

学習面

○ 学力向上に向けた取組

- ・ 課題である「書く力」を高めるため、15分間の朝自習チャレンジタイムの中で、月曜日は全校一斉視写の取組をする。
- ・ 高学年の算数科を中心に複数の教師で授業を行う。
- ・ 1時間の授業で、めあてを示し、まとめを必ず行い、「振り返りタイム」を設定する。
- ・ よいノートモデルを示し、ノートの書き方の定着を図る。

○ 自尊感情を高めるために

- ・ 学校生活の中で、一人一人の努力を認めて、長所を伸ばすようにする。
- ・ 道徳や学級活動で、子どもつながりプログラムを実践し、コミュニケーション力を高める。また、自分や他人の良いところを認め、上手に関わり合えるようにする。

家庭学習

○ 宿題のスタンダード化（時間、学年別・教科別内容）

- ・ 家庭学習の方法と内容の検討と共通理解をし、家庭学習の定着を図る。
- ・ 自主学習ノートの活用（予習、復習の定着）を推進する。
- ・ 学年に応じた家庭学習の時間の設定を行い、児童や保護者に周知する。
- ・ 学校・学年・学級だより等で家庭への啓発を継続する。
- ・ 「子どもひまわり学習塾」の実施を継続する。
- ・ 冬休み・春休みの宿題として、本校の学習上の課題を反映させた問題に取り組みさせる。

○ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知

- ・ 学校便り・学校HPで周知する。
- ・ PTAの会議や保護者懇談会等で周知する。

○ 規則正しい生活習慣の定着

- ・ 「はやね・はやおき」の児童への指導と家庭への啓発を粘り強く推進する。

いずれにしても、一朝一夕に学力はついていきません。日々の地道な取組の積み重ねが大切なことは言うまでもありません。また、学校の取組だけでなく、家庭での学習習慣や生活習慣の定着も学力向上の要因でもあります。学校としても、全教職員が力を合わせて学力向上に向けて努力をしているところですが、今後も保護者の皆様の理解と協力を得ながら、子どもたちの学力、体力、心の成長を培っていく所存です。どうぞご協力よろしくお願いいたします。

なお、この紙面ではお伝えしきれない、さらに詳しい分析等を二島小学校ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。[二島小学校で検索](#)

また、6年生一人一人に個人用の資料も学校に届いています。この資料につきましては、担任から2学期末個人懇談会の際に各保護者様に配付します。お子様の学力についての状況を知る上での参考の1つとしてご活用ください。